

窓クリンフィルムに関するQ & A

Q:どれくらいもつの？

長いところでは、3 年以上貼りっぱなしのところもあります。傷さえつかなければ、長期使用が可能です。傷が部分的につく場合は、大きく貼るか、傷がつかないところに貼るなどしていただければ長期使用が可能になります。また、分割して貼ることで、傷がつきやすい部分だけ短期交換するのもおすすめです。

Q:傷はつかないの？

ポリカーボネートやアクリルの窓よりも傷がつきにくいハードコート処理をしています。(ガラスには負けますが…)

Q:新品でない機械の窓でも使えるの？

清掃時にきっちり脱脂さえしてもらえれば、小傷がついてすりガラス状になった窓でも貼ってもらえると見えなかったのが、見えるようになります。サンプルで事前にお試ください。

Q:水溶性ならどのような切削液でも効果があるの？

基本的には効果が出るケースが多いですが、鉱物油が完全フリーな水溶性切削液には効果が実感できないケースもございます。油分が少しでもあるほうが効果は出やすくなります。事前にサンプルでお使いの切削液との相性をご評価ください。

Q:油性の切削液でもいいの？

水溶性ほどの視認性の効果はないので、まずは水溶性からおすすめしております。

中長期的には油性を使う機械の窓はポリカやアクリルなどが多く、傷やケミカルアタックで劣化するので貼っておいたらよかったということにはなるのですが…

Q:効果を感じにくい場合は

水溶性でも効果を感じにくい場合は、下記をお試ください。

- ① 一度、フィルムの表面を柔らかい布やキムワイプなどでふきとる
- ② 液量のかかりが少ない場合は、最初にわざと多めに窓にかかるようにする
(車のフロントガラスの撥水効果も霧雨では見にくいのも同じで、ある程度の水量が必要です)
- ③ サンプルの場合、小さいサイズなので、できるだけ縦方向に貼ってください。
縦方向に貼った方が、切削液が凝集することで流れ落ちやすくなる傾向があります。

Q:タイプの違いはなに？

表面はすべて同じになり、粘着層のみ違う3タイプとなります。

窓の素材や切削液の量によって普通の粘着力の糊(標準)、超つよい糊(超強力タイプ)、ガラス窓・高圧で切削液が多い場合、超強力でもはがれる可能性があるので特殊な糊のDRYタイプがあります。

＜裏面へ続く＞

ポリカーボネートの場合は、樹脂の性質上、貼ったあとからガスが発生して、気泡ができて、場合によっては剥がれることにつながるのでポリカ用の超強力タイプをおすすめしております。

貼り方は、標準、超強力が水貼り、DRY がスマホの保護フィルムと同じような直貼りになります。

Q:貼ってすぐに機械を動かしていいの？

貼ってすぐは、密着が不十分なのではがれる可能性があります。貼った後できるだけ養生する時間を設けてください。できれば、夕方、あるいは週末に貼っていただくことをおすすめいたします。

Q:カット、貼りつけする際に気を付けることはありますか？

- ・ カットする際は、0.2 mmの薄めの新刃のカッターを使用する（バリ防止）
- ・ 下敷きには硬めのプラスチックや金属板などを用いる（バリ防止）
- ・ 貼りつけ時、水抜きの際できるだけヘラでできるだけ何度も圧をかける（剥がれ防止）
- ・ 貼りつけ後できるだけ期間を開けてから機械を動かす（剥がれ防止）
- ・ 寒い時期、粘着力を上げるためにドライヤーを用いる（剥がれ防止）
（ただし、距離を 5 cm以上離して、同じ場所は 10 秒以内にしてください）

Q:表裏が分からなくなった場合の判別方法は？

標準タイプ、超強力タイプはコート面にセロテープなどを貼ると、くっつきにくい面です。剥離フィルムの裏面に貼るとくっつきます。（DRY タイプはコート面の上に青井養生フィルムが付きますので貼りつけ後捨ててください）

また、構成は下記の通りになります。

コート面（製品本体） 約 100 μ
粘着層
透明剥離フィルム 約 50 μ *こちらのほうが厚みが薄いです

透明剥離フィルムの裏面角部分にセロテープなどを付けると剥離フィルムがはがしやすくなります。

透明剥離フィルムをはがして、製品本体の粘着面を窓の内側に貼り付けてください。

Q:環境調査、輸出に関わる書類はどのようなものが対応できますか？

添付の窓クリンフィルム各種書類対応についての文章をご覧ください。

Q:PRTR法対象ですか？

窓クリンフィルムは対象外製品となります。

（2020 年 3 月改定）